



イギリスにおけるCovid-19と Black Asian Minority Ethnic —なぜ感染率や死亡率に格差があったのか

イギリスの首都ロンドンは移民都市として知られ、人口のおよそ50%が移民であり、常に300以上の言語が話されている。Covid-19の初期に死亡した者の多くは、実は、BAMEと呼ばれる移民たちであったことが国の調査でわかってきている。さらにBAMEの中でも言語コミュニティによって感染率や死亡率に明らかな違いがあった。パンデミックは誰にも「等しく」襲いかかると考えられるが、イギリスのケースを見る限り、死亡率においては、かなりの格差があったのだ。発表者は、この格差の原因が、リチャード・ホートのいう「[シンデミック](#)」に加えて、異なるコミュニティのもつ言語的特性や実践する文化の異なりにもあると考え、UKRIから研究助成金(AH/V013769/1)を得て、14人の研究者とともにBAMEからオンラインによるアンケート、そしてインタビュー調査を行った。集積したデータを考察する際には文化翻訳という観点からスチュアート・ホルの“[Conceptual Maps](#)”等を応用した。本講演会ではこの調査内容を共有する。

発表者
佐藤 = ロスベアグ・ナナ
(SOAS University of London/日文研)

コメンテーター
藤濤 文子 (神戸大学)

日時 2025年1月24日(金) 17:00-18:30

場所 神戸大学国際文化学研究所 E410

主催 神戸大学国際文化学研究所推進インスティテュート(Promis)
問い合わせ office.promis.kobeu_at_gmail.com * _at_ は @ に置き換えて下さい。